

令和元年度パネル展(会期：令和元年6月18日(火)～9月16日(月・祝))



# シルクロードの文化遺産 3

—海の道—

Kyushu Historical Museum Exhibition guide

## 1 シルクロード「海の道」

かつてユーラシア大陸の東西を結んだシルクロードでは、古来より様々な人や物が行き交いました。沿線には、現在も数多くの文化遺産が残されています。

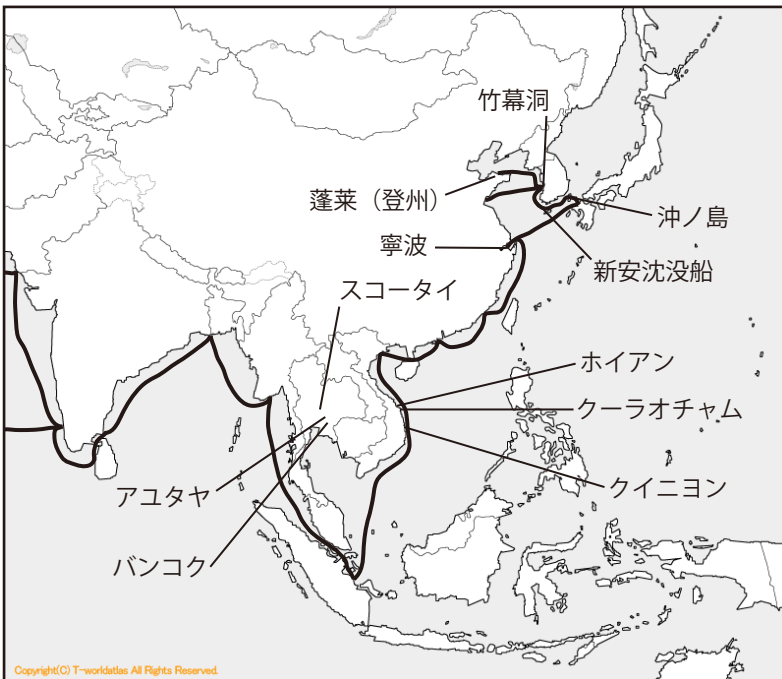
シルクロードのルートは、大別すると3ルートありました。その中で紅海やアラビア海からインド洋を通り、マラッカ海峡から北上して東シナ海に至るのが「海の道」です。中東から極東各国の沿岸を結んだ、壮大な海上交易路でした。この「海の道」の延長線上には、日本、そして福岡県もつながっています。特に世界文化遺産<「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群>の構成資産である沖ノ島は、日本と朝鮮半島や中国大陸との交流の中継点でした。この島では古代の約500年間にわたり、国家的な祭祀が行われました。遣唐使や遣新羅使として旅立つ人々が、航海の安全などを祈願したのです。また、日本から遠く離れた国々にも、九州や福岡県とのかかわりを示す文化遺産が残されています。

本展ではシルクロードの文化遺産の内、「海の道」に関連したアジアの国々の文化遺産について、紹介します。

## 2 朝鮮半島の沿岸

まず、日本からほど近い、朝鮮半島の沿岸から見ていきましょう。韓国中西部の岬の突端には、竹幕洞遺跡と呼ばれる祭祀遺跡があります。原三国時代から李朝時代まで、航海安全や大漁を祈願する祭祀が行われた場所で、特に三国時代の百済の祭祀遺物は、当時の日本列島の倭や中国大陸の南朝との交流を示すものとして注目されます。勾玉や刀子など滑石製の遺物も出土していますが、材料の滑石は日本の近畿地方産とされ、さらに型式も日本列島の出土品と同じであり、倭人がこの場所で祭祀を行ったと考えられます。

また、韓国西南部の道德島沖合では、新安沈没船と呼ばれる沈んだ貿易船が発見されました。これまでの調査で2万点を超える文物や船材が引き上げられています。船内には中国・元の銭貨や紫檀木などの高級家具財も積まれており、中国の慶元(現、寧波)から博多に向かっていた14世紀の貿易船と考えられています。荷札として木簡が付けられていましたが、これには博多の「筥崎」などと記した墨書もありました。



シルクロード「海の道」とその周辺



竹幕洞遺跡



新安沈没船発見の木簡

### 3 中国大陸の沿岸

中国山東省・蓬萊<sup>ほうらい</sup>や浙江省・寧波も、博多と海の道で結ばれた港町でした。山東半島中部の北岸に位置する蓬萊は、現代まで良港として機能している場所で、朝鮮・高麗や中国・明の沈没船も見つかっています。港の南側には、古代に登州という城郭都市がありました。都市の内部にある開元寺は、日本から唐の五台山に向かった平安時代前期の僧・円仁が、一時滞在したと伝えられる寺です。

新安沈没船の出港地と考えられる慶元は、現在の寧波です。慶元は当時の公貿易港であり、また新安沈没船に「慶元路」銘の分銅などが積まれていたことから、出港地と推定されました。この港は古代から中世にかけて、空海をはじめ道元・栄西・雪舟らが、相次いで入港した地と考えられます。郊外には、空海をはじめ、道元・栄西・雪舟らに縁のある天童寺をはじめ、径山寺・国清寺などの名刹が知られています。

また寧波には、太宰府に縁のある、文字を刻んだ石碑があります。宋の時代に、太宰府に居住していた宋人たちが、慶元の寺院の礼拝路整備に際して、経費を提供していたことを刻んだものです。彼らは博多の貿易商で、利益の一部を故郷の寺院に還元したものと推測できます。

### 4 東南アジアへ

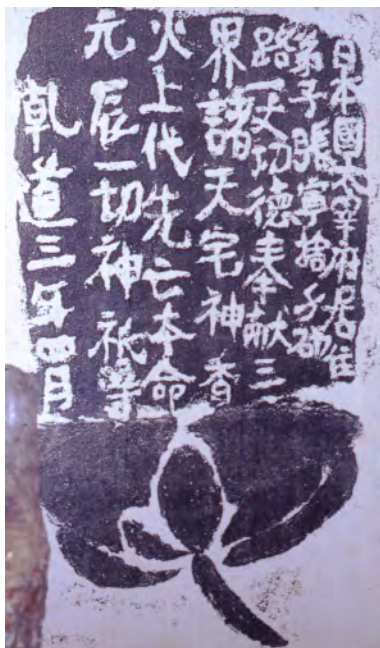
最後に東南アジアを見てみましょう。ベトナム中部の港湾都市・ホイアンには、16世紀末から17世紀前半にかけて、日本人町がありました。日本との間で朱印船貿易と称された貿易が行われ、松本寺という寺院もありました。街の周辺では17世紀中ごろの肥前磁器の陶片が採集されており、日本との交流がよく見えてきます。逆にベトナムの陶磁器が日本の南北朝～戦国時代の遺跡で出土することもあり、両国の陶磁器が海の道を通って行き交っていたことがわかります。

ちなみにベトナムでは、10世紀以降に中国の影響を受けて陶磁器生産が普及していました。中部のクイニョン付近では窯跡も発掘されています。

またタイと日本にも、海の道を通じた交流がありました。タイではスコータイ朝(1257～1350)の時代に鉄絵青磁が焼造されましたが、これは宋胡録(すんころく)という名で日本人に好まれ、日本の中世遺跡からも出土します。一方、バンコク北方のアユタヤには、山田長政縁りの日本人町がありました。アユタヤにはオランダ人町やポルトガル人町もあり、ユーラシア大陸の東西の人々が集っていました。

(執筆:名誉館長 西谷 正)

(編集:学芸調査室 渡部邦昭)



太宰府居住張寧刻字石



蓬萊の港湾



ベトナム・ホイアン付近での肥前磁器採集



寧波の名刹・天台山国清寺



タイのスコータイ焼



編集

発行: 令和元年 6月18日

九州歴史資料館  
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3  
TEL 0942-75-9575 FAX 0942-75-7834  
URL <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyureki/>